

船橋の街道を調べる 木下道編



近世の船橋は佐倉道、上総道、御成街道、行徳道、木下道などの合流地点で、江戸と房総・常陸東南部をつなぐ交通の要所でした。これらの街道が宿場町船橋の発展の基盤となりました。

木下（きおろし）道とは

木下道は江戸時代に利根川沿いの木下河岸と江戸川沿いの行徳河岸を結んだ脇街道。木下街道、銚子道、鹿島道などとも呼ばれます。木下河岸から大森～白井～鎌ヶ谷～八幡を経て本行徳に達します。江戸から下総・常陸に至る道筋として、とくに下利根川方面への最短路として利用されました。船橋市域には、木下道に関わる道標が多数残されていて、その銘文には「きおろし道」「かまがや道」「大もり道」などの道名がみられます。それらから市域にはその目的や機能などにより主に3つの「木下道」が存在していて、庶民の生活に直結して成立した道であることがよくわかります。

木下道を調べる主な資料

書名	著者名等	請求記号 資料番号	内容・該当箇所
『船橋市史 近世編』	船橋市史編さん委員会／ 編 船橋市役所 1998年	110/21/フ 013732565	「宿場町船橋の変遷」 (pp.119-149)
『船橋市史 史料編2』	船橋市史編さん委員会／ 編 船橋市役所 1988年	110/21/フ 011771698	「藤原新田御用留」に関 連文書多数収載
『船橋市史 史料編3』	船橋市史編さん委員会／ 編 船橋市役所 1990年	110/21/フ 012074381	「藤原新田御用留」に関 連文書多数収載
『道標』	船橋市郷土資料館／編 1983年	110/71/ト 011143450	市内の道標(辻や分岐点 の交通標識)の調査書
『資料館だより 61号～80号』	船橋市郷土資料館／編 1994年	110/09/シ 014371322	74号に「房総の道と木下 街道」を収載
『木下街道・なま道』 千葉県歴史の道調査報告書 6	千葉県教育庁文化課／編 集 1988年	000/29/チ 011808490	木下街道の歴史と道筋の 文化財の調査報告書
『木下街道展』	市立市川歴史博物館／他 編集 1999年	100/21/キ 015466527	市川・船橋・鎌ヶ谷・白 井・印西協同展示図録
『利根川と木下河岸』	山本忠良／著 崙書房 1988年	100/29/ト 011829322	鮮魚輸送路としての鮮魚 街道(なまみち)考
『関東水陸交通史の研究』	丹治健蔵／著 法政大学 出版局 2007年	600/68/カ 014158026	「近世後期木下街道の在 郷商人」(pp.469-494)
『法典の昔ばなし』	高橋久雄／著 1958年	110/38/ホ 011143476	「木下街道」「木下街道と 人車鉄道」を収載